

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 27 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22592557

研究課題名(和文) 保健師への課題解決支援を通して追求する人材育成と現任教育のあり方に関する研究

研究課題名(英文) Study concerning an In-Service Program aimed at supporting professional development and problem solving of Public Health Nurses

研究代表者

石丸 美奈(坪内美奈)(ISHIMARU, MINA)

千葉大学・看護学研究科・准教授

研究者番号：70326114

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円、(間接経費) 1,020,000円

研究成果の概要(和文)：保健師の実践上の課題解決を支援することを通して、研究的取組みと人材育成とを統合させた現任教育プログラムのあり方を追究することを目的に研究を行った。具体的には3つの調査を実施した。実践上の課題解決を図るための看護学の大学教員による保健師の研究的取組みへの支援方法の調査、その研究的取組みを行なった保健師の成果に関する調査、そして、現行の保健師の現任教育の枠組みの中で、保健師の課題解決を図るための研究的取組みの現状と課題の調査である。これらを総括し文献検討をふまえて、保健師の研究的取組みと人材育成とを統合させた現任教育プログラムについて、目指すところ、方法の枠組み、体制、評価の観点から検討した。

研究成果の概要(英文)： This study aimed to examine a Public Health Nurses' in-service program which combines practice-based research aimed at problem-solving with professional development. Therefore, we conducted three surveys. The first was to clarify the method of support by Public Health Nursing Faculty for practice-based research support aimed at problem-solving and professional development. The second was to clarify the outcomes for Public Health Nurses who conducted practice-based research. The third was to examine the status and problems of the in-service program.

We reviewed journals and summarized the above surveys. We considered the in-service program from the point of view of goals, method framework, support system and evaluation.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域看護学

キーワード：保健師 課題解決 研究 人材育成 現任教育

## 1. 研究開始当初の背景

(1)看護系大学は、高等教育機関として、看護職全体に対する生涯学習を支援する役割を持つ。既に各看護系大学は、研究指導、研修などの実施、そして大学院教育など、各種の方法で看護生涯学習支援に取り組んでいるが、今後も、看護職のキャリアアップにふさわしい生涯学習支援の方法を開発していくことが求められている。

(2)保健師の生涯学習支援の一つである現任教育に目を向けると、保健師には、多様化・複雑化した地域の健康課題を主体的に捉えた活動の展開を図ることが求められ、各地で現任教育のあり方が検討されている。現任教育と研究との関連においては、研修として、調査・研究能力育成の研修が実施され、その成果が報告されている。今後は、そうした研修に加え、調査・研究能力を現場の課題解決に活用していくこと、つまり、現場で研究的取り組みをしていくことが現任教育において大事であると考えられる。

(3)大学の役割には、実践側の努力である活動方法の模索・工夫・適格性の追究を支えることがあり、そのために研究的取り組みが有効と考えている。大学教員の立場での役割や具体的な支援方法を蓄積していくことが必要である。

## 2. 研究の目的

(1)保健師の課題解決を図るために、看護学の大学教員が、保健師及び所属施設と協働した研究を実施するなど、研究的取り組みを支援し、その過程で追求できる人材育成の特質を明らかにする。

(2)保健師の専門性に依拠した研究的取り組み支援について、大学教員の役割を含めて実現するための課題や論点を整理し、現任教育として実効性のある方法を提示する。

(3)(1)(2)を通して、保健師の課題解決を支援することを通して、研究的取り組みと人材育成とを統合させた現任教育プログラムのあり方を追究する。

<用語の説明> 研究的取り組みとは、保健師が、実践上の課題解決に向けて組織の了解の下で行う取り組み。

## 3. 研究の方法

【調査1】課題解決に向けた研究的取り組みの支援方法の調査

A：研究者自らの共同研究における実践事例

(1)目的：看護大学教員と保健師との共同研究において、看護学教育研究者（以下、教員とする）の研究的取り組みの支援内容の特徴を明らかにする。

(2)対象：保健師の実践上の課題解決を図るために保健師と共同研究をしている教員の内、直接的に保健師に関わる教員、5共同研究事例4名。

(3)調査方法：教員が保健師に関わる毎に、支援した時期、教員の支援体制、現地側メン

バー、教員が判断していたこと、関わりのねらい、実施したことを記録した。また、保健師の反応をふまえて、教員の関わりについて評価を加えた。調査期間は平成22年4月～23年3月であった。

(4)分析方法：事例分析では、保健師の実践上の課題解決をどう支援しているかという観点で、教員の関わりのねらいと行為を合わせて支援内容として簡潔に文章で表し、コードとした。また、共同研究プロセスを、開始・計画、実施、振り返りの段階に分けた。全体分析では、コードを意味内容によりサブカテゴリに分類し、全体に共通する支援内容の特徴の観点でカテゴリ化した。

(5)倫理的配慮：本研究は、研究代表者の前任大学の研究倫理審査部会の承認を得た。

## B：他の教育研究者の実践事例

(1)目的：保健師が行った研究的取り組みのプロセスにそって、看護系大学教員がどのように支援したかを調べることににより、実践上の課題解決、ひいては、保健師の専門職としての成長につながる研究的取り組みとなるための看護系大学教員による支援方法の特徴を明らかにする。

(2)対象：保健師の研究的取り組みを支援した経験があり、何らかの支援の成果（保健師の活動の充実、保健師の専門性が向上等）を感じている看護系大学の教員9名。研究者間のネットワークを用いて候補者を選定し、研究協力の同意が得られた者を対象者とした。

(3)調査方法：インタビューガイドにそって研究者1名により半構成面接を行った。インタビューガイドに含まれた調査項目は、支援事例における保健師の課題の概要、支援の概要、支援体制、支援において判断したこと、教員として心がけたこと有効と思った支援方法、成果として捉えていることであった。支援事例毎に、支援の過程がわかるように、支援のきっかけや状況、判断・心がけたこと、支援したことなど順を追って語ってもらった。面接時間は、1時間から1時間30分であった。インタビュー内容は承諾を得てメモ及び録音をした。調査期間は2011年2月～2012年3月であった。

(4)分析方法：分析する事例の選定条件は、保健師の取り組みの主体性を保持している、組織の了解が得られている、支援のプロセスが明瞭である、実践上の課題が解決の方向にあることとした。

語られた支援事例毎に、まず個別分析をした。事例毎に、研究のプロセスにそって、保健師はどのように研究的取り組みを進めたか、それに対して教員はどのように支援したかを、教員の支援に対する保健師の反応も含めて整理した。そして、教員は実践上の課題解決をどのように支援したか、また、どのような科学的方法を用いて支援したかという問いをかけながら、端的な表現となるように要約し、研究のプロセスにそって支援方法を

整理した。そして、全体分析として、全事例について研究のプロセス毎に教員の研究的取り組みの支援方法を集約し、内容の類似性により分類整理し、カテゴリ化した。

(5)倫理的配慮：本研究は、研究代表者の前任大学にて倫理審査の承認を得た。

【調査2】課題解決を図るために研究的取り組みを実施した保健師の成果に関する調査

A：共同研究を行った保健師の成果

(1)目的：看護学教育研究者と共同研究という研究的取り組みを行った保健師の学びを調べることによって、研究的取り組みを通じた人材育成の特徴を明らかにする。

(2)対象：課題解決を図るために筆者らと共同研究(5事例)をした保健師のうち、協力の得られた3共同研究14名の保健師。実施した共同研究の目的は、a)関係者と連携した要援助者支援、b)保健指導の質の評価、c)地域のニーズに即した地域包括支援センターの機能強化。

(3)調査方法：共同研究グループ毎のグループインタビュー調査。1回約30~45分。

(3)調査内容 基本的事項(保健師としての経験年数、所属部署での経験年数、本共同研究への参加年数) 研究的取り組みを通して学んだこと。調査時期：平成23年3月~6月

(4)分析方法：インタビュー内容を逐語録におこし、意味のまとまりごとにコード化し、学びの内容によりカテゴリ化した。

(5)倫理的配慮：本研究は研究代表者の前任大学の研究倫理審査部会の承認を得た。

B：業務研究を実施した保健師の成果に関する調査

第1段階-質問紙調査-

(1)目的：県保健活動業務研究会で発表された業務研究について、保健師が認識している成果と課題を就業年数群別に明らかにする。また、業務研究を実施した保健師自身が成果と評価する内容を明らかにする。

(2)対象：一県の県庁、保健所、市町村68機関の常勤保健師。事前に、各機関の保健師管理職等から調査協力可能な保健師数を確認し、1102人が対象となった。

(3)調査方法：郵送法による無記名の自記式質問紙調査。協力の承諾が得られた管理職を通して対象者に調査票を配布し、個々に返信してもらった。調査期間：2012年9月~10月。調査内容は、基本的事項(所属、保健師就業年数等)業務研究の経験、業務研究をした成果、業務研究の課題。

(4)分析方法：就業年数群別の保健師が認識している成果と課題は、SPSSver.18.0を用いて質問項目毎に単純集計し、就業年数群別(新任期1-4年、中堅前期5-9年、中堅後期10-19年、管理期20年以上)の比較は、<sup>2</sup>検定を行った。業務研究を実施した保健師自身が成果と評価する成果内容につい

ては、質的に分析した。

(6)倫理的配慮：調査票に研究趣旨や協力の任意性等について記した依頼文を同封し、調査票の返信をもって、同意が得られたものと見なした。所属大学の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

第2段階-インタビュー調査

(1)目的：保健師が最も成果があったと自己評価する業務研究の成果内容を詳細に調べることにより、業務研究を通して向上した保健師の能力を明らかにする。

(2)調査対象：第1段階の質問紙調査に回答し、対象選定基準(1.最も成果があったと評価する業務研究概要の記載あり、2.成果の出る業務研究に向けて意見記載あり)を満たし、調査承諾の得られた保健師。

(3)調査方法：半構成的面接により、最も成果があったと評価する業務研究について、研究の目的やきっかけ、実施体制、成果等を聴取した。発表時の業務研究抄録を持参し、記憶を想起してもらった。また、地域保健従事者に求められる能力一覧表をみてもらい能力に関する語りをひきだした。面接は1人につき1回、60~140分。承諾を得て、ICレコーダーに録音した。調査期間：H25年3~5月。

(4)分析方法：面接内容を逐語録にし、調査項目毎に整理した。業務研究の遂行により、保健師の考え方や姿勢・行動がどのように変わったかに着目し、文脈がわかるよう語りを抽出し、要約してデータとした。内容の類似性によりカテゴリ化し、個別分析の後に全体分析を行った。

(5)倫理的配慮：本研究は所属大学の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

【調査3】現行の保健師の現行教育の枠組みの中で、保健師の課題解決を図るための研究的取り組みの現状と課題の調査

(1)目的：現行の保健師研修の中で、保健師の課題解決を図るための研究的取り組みが行われているか現状を調べ、推進していく上での課題を検討する。

(2)対象：研究者ネットワークにより協力の得られた県の保健師人材育成担当課の保健師。

(3)調査方法：研究者1~2名によるインタビュー調査。了解が得られれば、録音する。また、了解を得て研修要綱等を収集する。情報収集項目は、現行の保健師研修の目標・方法・研修体制・研修における研究的取り組みの実際等、研修に研究的取り組みを取り入れることの可能性・課題等。

(4)分析方法：は研修別に項目ごとに整理し集約した。そして、研究的取り組みを取り入れている研修方法をタイプ別に示し、それを可能としている方法の要素を抽出した。はデータの意味内容で分類した。

(5)倫理的配慮：本研究は、研究者の前任所属大学の研究倫理審査部会の承認を得て実施した。

#### 4. 研究成果

##### 【調査1】課題解決に向けた研究的取組みの支援方法の調査

A：研究者自らの共同研究における実践事例  
共同研究における教員の支援内容は、41カテゴリ生成され、4大カテゴリに集約された。4大カテゴリは表1の通りであった。

表1 共同研究における教員の支援内容

- |                    |
|--------------------|
| 1. より質の高い実践に向けた支援  |
| 2. 共同研究に取り組む姿勢をつくる |
| 3. 共同研究のための環境を整える  |
| 4. 実践の改革のための能力を高める |

教員は、共同研究を通して、より質の高い実践につなげたり、実践の改革のための能力を高めるといった特徴があり、どの段階においても実践と研究とを関連づけていくことをしていた。共同研究の実施は参加保健師の意思に関わるだけに流動的であり、研究に取り組む姿勢や環境への支援も特徴であった。

##### B：他の教育研究者の研究支援の実践事例

保健師の研究的取組みに対する教員の支援方法は、開始に至る段階、計画の段階、実施の段階、現場への還元の段階に分けられ、計画と実施の段階は、さらに各々4つの段階に分けられた。これらの段階と全体のプロセスを通じて、教員の支援方法は50カテゴリが抽出された。

研究支援方法の特徴として、1)実践上の課題解決に向けて、より良い看護実践となることを意識して科学的方法を用い、研究と実践活動の循環を促し、実践の質の向上を導く、2)現場にある豊かなデータを言語化し、その意味を見出せるよう検討を深める、3)保健師の個別性を重視する、4)取組みのプロセスを通じて、外部支援者のメリットを活かし職場の協力を求め、取組みの共有化を図る、5)科学的方法の質を保証することが考察された。

##### 【調査2】課題解決を図るための研究的取組みを実施した保健師の成果に関する調査

###### A：共同研究を行った保健師の成果

14名の保健師から協力が得られ、全ての保健師から研究的取組みによる学びが語られた。学びの内容は表2のように8つのカテゴリに分類された。

表2 保健師の学びの内容(カテゴリ)

課題を解決していくための実践方法の明確化とその必要性・重要性に関する学び
研究的取組みを通して改善・充実した実践方法に関する学び
研究的取組みを通して深まった保健師の活動姿勢に関する学び
研究的取組みを通して促進された組織内外の関係者との連携や関係者の理解に関する学び
自らの実践活動をまとめ、形にして発信し、評価を受けることやその意義に関する学び

研究的取組みを通してメンバーと共に自らの実践の振り返りをしたことにに関する学び
今回の研究的取組みの方法に関する学び
研究的取組みの過程で得たことの自施設での指導者役割への活用可能性に関する学び

課題解決を図るための研究的取組みによる保健師の学びと人材育成との関連をみた結果、研究的取組みを通して、(1)組織内外の関係者への理解を深め、連携を促進できる、(2)問題を解決していくための実践方法を明確にし、実施し、評価ができる、(3)仲間と共に実践の振り返りを行い、保健師としての活動姿勢とともに、実践を高める力、組織の中での指導力を身につけられると考えられた。

###### B：保健師の業務研究を通じた成果評価の調査

###### 第1段階-質問紙調査-

492人から回答を得た(回収率44.6%)。所属の記載なし1人を除いた491人を分析対象とした(有効回答率44.6%)

(1)県保健活動業務研究の経験：ありは298人(60.7%)で、新任率は21.0%と少なく、管理率は86.7%と有意に多かった( $p<0.001$ )。 (2)業務研究による保健福祉活動の改善・充実の有無：「改善・充実されたと思う」は180人(62.3%)で、就業年数群の違いは見られなかった。

(3)研究による保健福祉活動改善以外の成果：保健師活動の振り返りや職場内で業務に関する情報交換・共有を成果とする者が多かった。

(4)最も成果があったと評価する業務研究(N=298)：最も成果があったと評価する業務研究があると回答したのは、202人(67.8%)であった。妊産婦・育児支援、住民との協働・地区組織活動、生活習慣病予防についての業務研究が多かった。その成果の内容は研究のプロセスや結果が、活動の改善・充実については対象者への良い影響、職場内外の連携の深まり、職場内の人材育成をもたらし、その後の実践の広がりや継続性に寄与したものであった。

###### 第2段階-インタビュー調査

分析対象者は8名、現在の保健師就業年数は20年以上5名、10年以上2名、5~9年1名だった。語られた業務研究は延べ10であり、その活動領域は、母子保健3、介護予防・高齢者福祉4等であった。全て担当者全員やチームで取り組んでいた。

業務研究を通して向上した保健師の能力は、33カテゴリに分類され、7つの大カテゴリに集約された。これらは、業務推進に直結する能力、業務推進のための手続きの能力、業務推進のための職場環境づくりの能力、業務を推進する保健師を成長させる能力と考えられ、業務研究の遂行により、保健師は構造的に能力を発展させていることが示唆された。

【調査3】現行の保健師の現任教育の枠組みの中で、保健師の課題解決を図るための研究的取組みの現状と課題の調査

4県20の保健師研修の情報を得た。階層別研修15、テーマ別研修3、職場研修2であった。表3のように3つのタイプがあった。

タイプ	保健師研修の内容
A 5件	研修で設定された課題について、職場で取組み、研修の場で成果や考察を深めるタイプ(課題例:新人期の個別援助、中堅期の事業評価、評価に基づいた企画立案)例:中堅期の事業評価
B 2件	自ら設定した課題について、職場で取組み、研修の場で成果や考察を深めるタイプ(課題例:業務の中での研究課題)例:業務研究研修
C 2件	研修の場で地域の健康課題に関連して取り組むべき課題を検討する中で、今後の活動につながるよう気づきを促すタイプ(例:地域の健康課題)例:保健所管内保健師研修

研修に研究的取組みを組み込む上での課題は、研修受講生の職場内の取組み支援者の存在、研究的取組みをする意識を職場の中につくること等であった。

【総括】研究的取組みと人材育成とを統合させた現任教育プログラムのあり方

調査1～4と文献検討をふまえて、研究的取組みと人材育成とを統合させた現任教育プログラムのあり方について検討した。

(1)目指すところ:実践の質を保証し、さらに高めていく。保健師の実践活動の根拠となる知識や技術を産出する。この研究的取組みそのものにより、組織内外の関係者との連携を促進し、実践活動や施策を推進すること、保健師にとっては、看護専門職として自己の成長を図ることにつながることを目指す。

(2)方法の枠組み:業務の改善・充実を目的に、科学的手法を活用し、実践活動と研究を連動させる、現場にある豊かなデータを言語化し、その意味を見出せるよう職場の中での検討を深める、保健師の個別性(就業年数、本人が業務・実践で課題と感じていること)を重視する

(3)体制:大学など外部支援者を有効活用する。職場内の支援者を確保する、

(4)評価:業務の改善・充実の成果、研究により生みだされた実践活動の知見、人材育成の観点からの評価(業務推進に直結する能力、業務推進のための手続きの能力、業務推進のための職場環境づくりの能力、業務を推進する保健師を成長させる能力)。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

・石丸美奈, 安田貴恵子, 山崎洋子, 井手知恵子:実践上の課題解決を目指した保健師の研究への看護系大学教員による支援方法の特徴, 千葉看護学会会誌, Vol.19, No.2, 47-55, 2014、査読有り。

<http://www.cans-net.jp/journal/backnumber/192.html>

〔学会発表〕(計 11 件)

・石丸美奈, 飯野理絵, 宮崎美砂子, 佐藤紀子, 細谷法子, 岩瀬靖子, 上田修代:最も成果があったと自己評価する業務研究を通して向上した保健師の能力, 第17回日本地域看護学会学術集会, 発表予定, 2014。

・石丸美奈, 池崎澄江, 時田礼子, 飯野理恵, 宮崎美砂子, 佐藤紀子, 細谷紀子:保健師が評価する業務研究の成果内容-A 県内保健師の質問紙調査から-:第72回日本公衆衛生学会学術集会, 2013年10月25日, 三重県総合文化センター(三重県)。

・Mina Ishimaru, Reiko Tokita, Rie Iino, Misako Miyazaki, Noriko Hosoya, Noriko Sato: Practice-based Research in a Public Health Nursing Setting for People with Vulnerability: 9th International Nursing Conference & 3rd World Academy of Nursing Science, 2013年10月17日, The K- Souel Hotel(Korea)。

・石丸美奈, 杉田由加里, 時田礼子, 飯野理恵, 宮崎美砂子, 池崎澄江, 佐藤紀子, 細谷紀子:A 県内保健師が自ら行った業務研究への評価と推進要件~市町村保健師に焦点をあてて~:第19回千葉看護学会学術集会, 2013年9月14日, 千葉大学看護学部(千葉県)。

・石丸美奈, 上田修代, 岩瀬靖子, 飯野理恵, 宮崎美砂子, 佐藤紀子, 細谷紀子:「A 県保健活動業務研究」の成果と課題~保健師就業年数群別の特徴~:第16回日本地域看護学会学術集会, 2013年8月4日, ホテルクレメント徳島(徳島県)。

・石丸美奈, 安田貴恵子, 山崎洋子, 井手知恵子:保健師の現任教育における課題解決を図るための研究的取組みの現状と課題, 第71回日本公衆衛生学会学術集会, 2012年10月25日, 山口市民会館(山口県)。

・Mina Ishimaru, Yoko Yamada, Mika Umezu, Mitsuko Matsushita: Experiential learning of Public Health Nurses through participation in collaborative research.NET(Networking for education in healthcare)2012 Conference, 2012年9月5日, Robinson College, Cambridge(UK)。

・石丸美奈, 山田洋子, 梅津美香, 松下光子:保健師の学びからみた研究的取組みを通じた人材育成の特徴.日本地域看護学会第15回学術集会, 2012年6月24日, 聖路加看護大学(東京)。

・Mina Ishimaru, Yoko Yamada, Mika Umezu,

Mituko Matsushita: Participation of Nursing faculty with Public Health Nurses in the Process of Collaborative Research . The 9 th International Conference Academic Nurse-Managed Wellness Care Centers, 2012年5月30日, Seoul University( Korea ).

・石丸美奈、山田洋子、梅津美香、松下光子：保健師の実践上の課題解決に向けた研究的取組みの支援内容の特徴，第70回日本公衆衛生学会学術集会，2011年10月20日，秋田県民会館（秋田県）。

・石丸美奈、時田礼子、岩瀬靖子、飯野理恵、宮崎美砂子：保健師の現任教育における研究的取組みの意味，千葉看護学会第17回学術集会，2011年9月17日，千葉大学けやき会館（千葉県）。

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕  
ホームページ等 なし

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

石丸 美奈 (ISHIMARU MINA)  
千葉大学・大学院看護学研究科・准教授  
研究者番号：70326114

### (2)研究分担者

なし

### (3)連携研究者

松下 光子 (MATSUSHITA MITSUKO)  
岐阜県立看護大学・看護学部・教授  
研究者番号：60326113 (2010-2012年)

山田 洋子 (YAMADA YOKO)  
岐阜県立看護大学・看護学部・講師  
研究者番号：50292686 (2010-2012年)

梅津 美香 (UMEZU MIKA)  
岐阜県立看護大学・看護学部・教授  
研究者番号：50326112 (2010-2012年)

井手 知恵子 (IDE CHIEKO)  
大分大学・医学部・教授  
研究者番号：00232421

安田 貴恵子 (YASUDA KIEKO)  
長野県看護大学・看護学部・教授  
研究者番号：20220147

山崎 洋子 (YAMAZAKI YOKO)  
山梨大学・医学工学総合研究部・教授

研究者番号：10248867

時田 礼子 (TOKITA REIKO)  
千葉大学・大学院看護学研究科・助教  
研究者番号：70554608 (2011-2013年)

岩瀬 靖子 (IWASE YASUKO)  
研究者番号：20431736 (2011-2012年)  
千葉大学・大学院看護学研究科・助教

飯野 理恵 (INO RIE)  
千葉大学・大学院看護学研究科・助教  
研究者番号：40513958 (2011-2013年)

宮崎 美砂子 (MIYAZAKI MISAKO)  
千葉大学・大学院看護学研究科・教授  
研究者番号：80239392 (2011-2013年)